

“労働組合”という社会的な資産を活かし 一人ひとりの可能性を拓く —「2023労組リーダーセミナー」を開催—



写真上/講師 相原理事長

写真左から/細砂副会長
金田広報・教育局長

グループワーク&発表の様子

連合鳥取は、8月19日(土)、「2023労組リーダーセミナー」を白兔会館(鳥取市)において開催しました。各産別より若手中堅役員34人と、連合鳥取広報・教育局役員14人の合計48人(うち女性8人・女性参画率16.7%)が参加し、「これからの労働運動を考える」と題した講演を聞き、グループワークを行いました。

■主催者あいさつ(抜粋)

連合鳥取細砂直副会長

労働組合・労働運動の必要性に対する意識の希薄化が懸念される今、労働組合・労働運動の意義・必要性を若年層にいかに関承していくかが重要になってきます。本日は、相原康伸理事長の講演とグループワークを行います。セミナーを通して、「組合役員としてどのように考えたらよいか」、「どのように行動したらよいか」学んでほしいと考えます。

■講演

「これからの労働運動を考える 未来予測」

講師

公益財団法人国際労働財団(JILAF)
公益財団法人教育文化協会(IEO)
相原康伸 理事長

連合事務局長の経験もある相原理事長を講師に迎え、「組合運動と労働運動の違い」や、「労働組合は一人ひとりの可能性を拓くもの」といったテーマについて講演を聞きました。

国際社会において、いち早く労働人口減少に転じた日本の現実を見据え、今後、自分たちでどのように未来を描いていくかが必要であり、また、DX(デジタルト

ランスフォーメーション)による産業形態の変化や、ジェンダーをはじめとした多様性を受け入れる活動が活発化してきていることに触れ、「これらを受け入れ、どのような未来を描いていくかを一人ひとりが考え、未来につないでいくことが重要ではないか」と説明されました。参加者は、これらに対し、熱心に耳を傾けていました。

■グループワーク&発表

「わたしが思い描く労働運動」

後半は、参加者を8グループに分け、「理想の役員像」、「どんな役員になりたいか」について討議を行いました。限られた時間の中、活発な意見交換が行われました。各グループから、様々な理想とする役員像が発表されました。

■まとめ(抜粋)

広報・教育局 金田慎一 局長

3年ぶりにグループワークを行いました。連合の集まりは、単組・産別の枠にとらわれない、意見交換ができることがメリットです。いろいろな働き方があるので、こういった機会に視野を広げてほしいと考えます。広報・教育局では、機関紙発行や交流の場を設定しているので、ぜひ、活用してください。

参加者アンケートより

- ・「男性がリーダーであるべき」など偏った考え方をなくせるよう労働運動に取り組んでいきたい。
- ・組合活動の中で組合員の声をきちんと拾っているかと感じた。
- ・組合員が豊かで安定した暮らしを送れるよう尽力するとともに、社会的課題(ジェンダー平等・DV・貧困等)にもしっかり取り組みたい。
- ・「理想の役員像」像がいろいろあり、今後の労働運動をどうしていくか考える参考になった。
- ・理想の役員像になるためには、知識と経験を増やすことが必要。
- ・他単組の方と討論でき、様々な経験が聞けた。

別紙「連合鳥取2024年度政策・制度要求」もご参照ください

■ 平和特集 (フォトニュース) ■

連合鳥取ピースウォーク

中央 (東部) 【7/29/130人】

■平和学習 ひめゆり平和祈念資料館
オンライン展示ガイドツアー



さざんか会館

中部地域 【7/27/80人】

■平和学習 「祖国ウクライナへの想い」
ウクライナ出身 ピロゴヴァ マリーナさん



倉吉体育文化会館

西部地域 【7/29/119人】

■平和学習 「平和を考える授業」



米子市文化ホール

平和行動in沖縄 【6/23-24】



平和行動in広島 【8/5-6】



千羽鶴奉納



献花・献水

平和行動in長崎 【8/8-9】



UAゼンセン「北朝鮮拉致問題学習会・街頭署名活動」に参加



8月20日(日)、UAゼンセン主催による「拉致問題事前学習会」が、米子ワシントンホテルプラザにおいて開催され、26人(UAゼンセン12人・連合鳥取執行委員他14人)が参加しました。

冒頭、UAゼンセンヤングリープス鳥取の門西慶和委員長から主催者あいさつがあり、続いて、北畑仁史支部長が県支部代表あいさつをされました。UAゼンセンは「北朝鮮による日本人拉致被害者支援活動」に取り組まれており、とりわけ、鳥取県においては尾崎商事労働組合(現 菅公学生服労働組合)の当時組合員であった松本京子さんが政府認定拉致被害者になっていることもあり、定期的に署名・カンパ活動に取り組み、世論喚起を行っています。

学習会では、松本孟さん(京子さんの兄/写真上)が「京子が29歳の時に拉致され46年が経過し、現在75歳。日本人が助けなければ、北朝鮮のごみとして捨てられてしまう。拉致被害者、そしてその家族の高齢化も進んでいる。これから先も行動を起こし、なにがあっても諦めない」と救出を求め訴えられました。



その後、松本孟さんとともに、イオン米子駅前店周辺で署名活動を行い、127筆のご協力をいただきました。

西部地協発「国政報告・政策学習会」開催

西部地協は8月17日(木)、米子コンベンションセンターにて参加者60人(うち女性10人・女性参画率16.7%)のもと湯原俊二衆議院議員を講師に招いて「国政報告・政策学習会」を開催しました。

解散総選挙が噂される中、湯原衆議院議員から国会における状況について報告があり、「野党が分断されている状況では政権交代は難しい。大同団結が必要だ」と訴えられました。

「政策学習会」では公共交通政策をメインに活発な討論が繰り広げられ、主催者教育や学校教育についても参加者から質問がありました。

湯原衆議院議員は「政治に関心を持ってもらうことが大切。ぜひ職場集会にお邪魔して、特に若い組合員のみなさんとお話がしたい」と意欲を示されました。

西部地協 国政・政策学習会



東部地協発「2023自然環境保全活動」75人参加!

東部地域協議会は、8月26日(土)

午前7時30分に鳥取砂丘に集合し、自然環境保全活動の取り組みとして、ボランティアによる「鳥取砂丘除草活動」を行いました。



自然公園財団・砂丘レンジャー(2人)から、「抜いてよい草・抜いてはいけない草」の説明を受けました。早朝とはいえ気温が上昇、15分置きの声かけにより水分補給しつつ、みなさん汗をかきながらの作業となりました。

約40分間の除草作業終了後には、一人ひとりが持つ収集袋がどれもいっぱいになっていました。今回の活動が、砂丘の深刻な草原化への歯止めにつながったと思います。

参加いただいたみなさん、暑い中での作業、大変お疲れさまでした。



(寄稿 東部地域協議会事務局次長 朝倉 悟さん)



湯原俊二

— りょくひ 緑肥の想い —

岐路に立つ日本と野党

第二次世界大戦が終戦して78年が経ちました。日本の死者数は約310万人、世界では5000万人～8000万人といわれています。亡くなった方には大切な家族や友人、愛する人たちがおり、それぞれに人生がありました。戦争はすべてを奪ってしまいます。

時が経ち、麻生自民党副総裁は台湾に出向き「戦う覚悟を」と発言し、中国や北朝鮮をけん制し、抑止力を持つべきだとしました。歴代の自民党権力者である戦争を体験した田中角栄、後藤田正晴、宮澤喜一、野中広務は、どう考えるでしょうか。国の進路は、単に外交や安全保障上の駆け引きだけではなく、多くの国民が思う「不戦」という国是に基づくべきと考えます。

一方で、自民党秋本衆議院議員が再生エネルギーに関して贈賄の容疑がかけられています。自民党内には原発賛成派も反対派もあることが改めて明らかになりました。

私は、次世代のために政治を変えるには政権交代しかないと考えます。その政権交代をするためには野党に大きな受け皿を作らなければなりません。自民党内でも憲法9条改正、安全保障、原発問題などについて賛否が分かれています。野党も政権を取るため大きな受け皿を作るための度量が求められています。

※インターネットで **衆議院TV** → **湯原俊二** を検索ください。過去の発言風景がご覧になれます。

湯原さんのホームページもご覧ください **湯原俊二** **検索**



←二次元コードからつながります



J.P.労組鳥取伯耆支部 第16回定期大会 (2023.7.30)



J.R.連合J.R.西労組米子地方本部 「第33回定期大会」 (2023.8.25)



連合鳥取西部地域協議会 「国政報告・政策学習会」 (2023.8.17)

“ザ・議員”

ながさかのりおの 長坂 則翁

鳥取市議会議員

去る5月22日(月)から5月24日(水)まで、鳥取市議会総務・企画常任委員会(私は副委員長)の視察で、福岡県福岡市と岡山県倉敷市に行きました。

視察調査項目は、福岡市では、①地域との協働による買い物支援推進事業について、②DX(デジタルトランスフォーメーション)について、倉敷市では、③連携中枢都市圏の取り組みについてでありました。

また、市議会運営委員会の委員として、7月5日(水)から7月7日(金)まで、茨城県取手市、千葉県柏市、神奈川県藤沢市へ行ってきました。

視察調査項目は、3都市とも①議会におけるオンライン会議導入経緯、運営の現状と課題について、②議会におけるペーパーレス化の取り組みでした。

両視察を通じて、参考となり学んだ点もありましたが、課題も多々あると感じ、視察を終えました。



福岡市役所議会棟前にて (2023.5.22)

いとう ひろえ 伊藤 ひろえ

米子市議会議員

私の今期の公約のひとつは「ひとり親家庭の支援」です。

ひとり親世帯の児童を支援するための制度として「児童扶養手当」がありますが、年に一度、現況を届けることになっています。その際に、夏休みのこどもの食支援としてフードパントリー(フードバンク活動)のブースを設けていただけました。食品を受け取られた方は「助かります!」「このような活動を知りませんでした。これから利用します!」と好評でした。

すべての子どもたちが夢と希望をもって成長していくことができるようお願いしています。引き続き、生活者や働く現場の声を真摯に受け止めながら、地域で安心して暮らせる共生社会をめざし尽力してまいります。



先日ウクライナ出身で鳥取県に在住のピロゴヴァマリナさんの話を聞く機会があった。申し訳ないがどこか遠い他人事のような捉え方をしていた。しかし、生き残るために毎日必死で過ごしている様子や、身内が最前線にいる状況など聞き進むうち、身につまされる思いになった。▼と同時に、私の我が子を見ながら「明日突然戦争が始まったら自分はもうどうするだろう」と妄想したことを思い出した▼さすがにそんなことが急に起こるはずはないのだが、豪雨や地震など前触れなく命の危険が迫ることはあり得る▼私は戦後生まれなので、肌感覚で戦前の世相を知らない。しかし今を「新たな戦前」と表現する人がいる以上、「何がそう感じさせる要因なのか、どうすれば回避できるのか」想像力や共感を発揮して思いを巡らせ備えておきたいと思う▼我が家の田んぼの稲穂が風に揺られる光景を見ながら、ウクライナの麦畑に砲弾が撃ち込まれる光景が重なって見え

(百面姓)



てんてんてんてん